



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009



## ガバナーメッセージ

### “年度の回顧と感謝”

国際ロータリー第2710地区  
2008-09年度ガバナー 諏訪昭登

親愛なる会長、幹事そしてロータリアンの皆様  
遂に2008～09年度のフィニッシュラインが来ま  
した。まずもってこの一年、私に戴いた友愛と寛  
容によるご支援ご協力に、心からなる感謝の意を  
表します。ふり返れば2年9ヶ月前、地区大会で  
ガバナーノミニーのご挨拶をしたことが、昨日の  
ように思い出されます。それ以来、私ごときが、ガ  
バナーという重責を如何に果すべきかについて考  
える日々が、高まる重圧と共に続きました。その  
結論としてとにかく“Service”の意味するこ  
とを単純化して、全ての局面で“役に立つ”こ  
とに徹しようということでした。その基本的思考  
の最初のプレゼンテーションは、私の任務の一部  
を公式の代理としてお勤めいただくための第1回  
ガバナー補佐(A G)会議(9/22)でありました。そ  
れは私の35年余のロータリーライフで培ったも  
のを凝縮したものと言えるし、年度を通じて一貫  
して拠り所とした信念でありました。国際協議会  
から持ち帰ったRIテーマ“Make Dreams Real”  
「夢をかたちに」を最重要のものとして、私はガバ  
ナー信条“心に愛を、実践に情熱を！”と掲げて、  
地区研修リーダーの松本茂太郎P Gと連絡を密に  
しながら、ご助言をもとに年度準備を進めました。  
第2回(12/1) 第3回(2/9) 第4回(4/5)、特に  
第3回は地区幹事(全員広島西RC) 合同で地区  
研修委員会として開催し、地区チーム全員の意識  
の統一を計りました。その成果はP E T S &地区  
チーム研修セミナー、地区協議会などで発揮して

いただけたと思います。理念に裏づけられた実践  
こそロータリーの目指すべきことだと確信する私  
のロータリーについてのプレゼンテーションをそ  
のままご参考に供します。

#### プレゼンテーション ロータリーについて

#### ●ロータリーとは(用語)

「ロータリー」はロータリークラブとロータリ  
アンによって構成される組織、クラブとロータ  
リアンを指導する原理、慣行および慣例、そし  
てクラブとロータリアンが達成を期する目的お  
よび綱領を示す言葉として用いられる。

☆ロータリーという目には見えない一定の質の思  
想である。

・良質な思想は支持され永続される。ロータリ  
ー100年余の歴史

#### ●ロータリーという思想とは

1923年のセントルイス大会における「決議第  
23-34号」の第1項に「ロータリーとは利己と  
利他の調和を目的とする人生の哲学である」と  
規定されている。人生の哲学とは「最もよく奉  
仕するものは最も多く報いられる」という実践  
倫理に基づいた「超我の奉仕」の哲学である。

☆不変の基本理念である。

・不易流行 松尾芭蕉 俳諧の心

変えてはならないものは理念

時代変化に合わせて変えていいのは組織、制  
度



## ●人生の哲学の具体的内容

クラブ定款第4条「ロータリーの綱領」にある。「ロータリーとは事業の根底に“奉仕の理想”をおくことを鼓吹、育成することを目的とする」とある。続く4項目がほぼ四大奉仕部門を表す。

☆“奉仕の理想”は人生哲学の本体である。

- ・綱領は“奉仕の理想”の文言を明示している。その内容が人生哲学。

## ●“奉仕の理想”の解釈（ロータリー精神と考える）

その実体は綱領と決議23-34第1項にある。「超我の奉仕」「最もよく奉仕するものは最も多く報いられる」この二つの標語が中心概念である。

☆自己犠牲を求めるものではなく、得るべき利潤を追求することを認識しながら、その獲得手段についてロータリー精神を基盤とすることを強調している。いわゆる職業奉仕を第一義としている。利己と利他の調和を常に規範とすることである。これが「ロータリーの奉仕」の基本理念である。

- ・標語の受け止め方には個人差があるがそれは個々の問題として全体論では上記の如くである。
- ・23-34から2004年版手続要覧P.76社会奉仕に関する1923年の声明（2007年版手続要覧P.84）

## ●ロータリークラブとは

決議23-34はロータリーのバイブルと言うべきものであり80数年前から現在までロータリーの基本理念と実践についての現在につながる原則である。ロータリークラブについてその第2項で4つの機能を規定している。

第1に良質な職業人としてロータリアンは奉仕の哲学を理解するため、クラブの中で互いに自

己研鑽をしなければならない。

第2、クラブは職業倫理観を宣言しなければならない。各自の職業経験を中心とした自己研鑽は職業観、経営観の改善につながる。その総和で地域社会の全ての職業に適用されるべき職業の在り方を宣言する。

☆1915 サンフランシスコ大会で「全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓」が宣言された。（道徳律としてRI細則第16条として1980年まで項目のみ掲載。現在では「職業宣言」<1989>と代っている。）

- ・ロータリー通解（1916年）理念と原則の教育書

第3、ロータリークラブは個人奉仕を提唱しなければならない。

☆ロータリーにおける本体的奉仕は個人奉仕である。

第4、クラブはクラブの事業計画に組み込める個人奉仕、並びに団体奉仕を提唱すること。

☆団体奉仕を否定するものではなく双方に関するプログラムの企画、立案、実施をする。

そのプログラムはロータリアンの自己改善の糧となり、クラブ外においては地域社会の人々の公德心を高揚させる契機となるようなものであるべきだ。

92-286を参考にしながら実践原則とする。

23-34に抵触する点あり

- ・地区とクラブの他団体との協力についてRAC、IAC、RCCを対象とした社会奉仕の実践のみに限定された指針。

## ●国際ロータリーとは

決議23-34の第3項、国際ロータリーは全世界のロータリークラブの連合組織体であり、次の三つの機能を有する。



# GOVERNOR'S MONTHLY LETTER 2008-2009

## a) 奉仕理念の追求とその提唱

世界中にロータリーの“奉仕の理想”を行きわたらせる為にこれを行うことを全世界のクラブから委託されている。

☆地区ではガバナーがその役を担う。

- ・年度前研修、公式訪問において。

## b) ロータリーの拡大

ロータリーの“奉仕の理想”を世界に拡げるためには世界中の地域社会にロータリークラブを作って行くことがRIの設立目的である。

☆RI役員たるガバナーは地区内においてそれを提唱する。

- ・2001 G-8 東広島21RCを最後として無し。

## c) 情報媒介機能

RIは世界中のロータリークラブの情報をプールして他のクラブに伝える。

☆ガバナーがその機能を果たす。

- ・月信、AG、地区委員会から。

奉仕の実践は含まれていないから出来ないし、地区で行おうとする場合も地区はRIの組織そのものなので絶対に奉仕プログラムの企画、立案、実施をしてはならない。

但し、クラブから主体的に運動が盛り上がり、地区内全クラブの意志が一致した場合には地区は情報媒介機能の立場で奉仕の実践をする即ちドッキングしても良い。

- ・マッチンググラントetc.

## ●ロータリークラブとRIとの関係

両者は共に自主独立性をもった自治団体である。法的にはRI定款第3条の直接監督権とRC定款第9条（現第10条）の絶対的自治権との調和が問題となる。

- ・目的（c）項・第1節 理事会が管理主体。

その解決は決議23-34。

その第5項に各クラブは絶対的自治権をもっているとして規定。

クラブあつてのRIという大原則である。

☆RIの直接監督権とクラブ自治権との調和は如何に考えるか？

それはクラブの自主独立性と協調の問題であり、自主独立性を主張するクラブがRIから出される指導と助言及び他クラブの経験について謙虚に学ぶ姿勢を持つことで協調が保たれる。

- ・パイプラインで結ばれた導通良き関係。

## ●地区ガバナーとクラブ会長、幹事との関係

ロータリアンの世界は完全に平等、対等が大原則である。

会長、幹事はクラブという自治団体の代表者であり、ガバナーはRIという自治団体の代表者だからお互いに平等対等である。

上下関係は無く一部にあるように、ガバナーへの過剰尊重は間違い。

この原則の如くRI会長、地区ガバナー、地区委員、一般会員これらは全て平等、対等。仲間として和やかに語り合えるようお互いに心がけるべきだ。

☆ロータリー世界はこのように完全横型社会であり、いささかなりとも縦型思考が入ってはならない世界である。

下意上達・Noblesse Oblige は階層社会の考え方必ずしもロータリーに合致せず。

ロータリーとかけて 共存共栄と解く

その心は 利己と利他の調和

（DGEの考え）

以上に加えて特に職業奉仕について「職業宣言」



と「四つのテスト」の重要性を強調し、CLP、ロータリー財団など広く解説につとめて、疑問のない姿での年度スタートをお願いしました。

その後、4月から5月中旬にかけて各グループAGのお世話で、「ガバナーエレクトを囲む会長幹事会」を行いました。互いに胸襟を開いて語り合うロータリーの楽しさを今だに懐しく思い出しています。年度準備に相当の重点をおいたのは、備えあれば憂いなしの形をとりたかったからです。皆様はよくご理解下さったと思います。地区運営に大きな貢献されました。

さて2008年7月から年度に入り酷暑の中、7月15日から地区内74RCへの公式訪問を約半年で完了しました。その際には、近年の日本ロータリーの低迷は経済状況のみにその原因があるのではなく、内部的要因が大きいと申し上げました。ロータリアンとしての心の貧困、いわば理想と誇りが稀薄になっているものと考え、本年度は全面的反転、上昇の年にするよう全力を挙げて下さいとお願いしました。そのためにはクラブ運営の充実、即ち社交クラブとしての和やかで民主的運営を心がけ、就中、クラブ研修リーダーを全クラブで任命して継続的研修プログラム（ロータリー情報）の実施を要請し、そのことが研修補完推奨事業として第1回RLI-2710（ロータリーリーダーシップ研究会）開催へと発展致しました。また会員増強の正しい意味を踏まえて、適格者を全会員の努力で勧誘しようと呼びかけました。特に職業奉仕を第一義とするいわば“日本の香りのするロータリー”の再構築を強調致しました。例会前の会長幹事懇談会は1時間の予定で、特に会長エレクトにもご同席を願って、良くない意味での前例踏襲や誤解など、いわば積年のサビ落とし及至クリーニングを共同作業で出来たことは、次年度以降につながるものと確信しております。地区大会は

大会アピール“世界平和は我らの願い”を込めた記念事業が実現出来たし、2200名近いご参加によって特に職業倫理についての深川PGの感銘深い記念講演の余韻の中で無事完了しました。有り難うございました。後半は10ヶ所のインターシティミーティングが、各AGの主催でいずれもRIテーマと強調事項に関連したテーマで、期待通り有益に完遂されたことに敬意を表します。6年ぶりに開催出来たRYLA、内容あるGSEなどいずれもそのご尽力に対し感謝致します。会員増強はご努力の成果が明確な形で残るものと信じております。年度内、11RCで創立祝典が立派に行われたことにも重ねてお祝いを申し上げます。国際大会へは90名近い当初登録いただき、日本人親善朝食会35名、ガバナーナイト55名と、信じ難いほど多くのご参加申込を得たことも感激の極みでありました。語りきれぬ程の懐しい思い出に包まれて年度が経過して行きました。その間、暖かいご理解、ご支援を賜りましたパストガバナーの方々に衷心より御礼申し上げます。地区ロータリアンの皆様と共に、心一つに同志としてロータリーのために尽力しようとの合言葉で励んだこの一年を終生の誇りに致します。これをもって語り尽せぬ感動と深甚なる感謝を込めて、ガバナーとしての最終メッセージとさせて戴きます。ほんとうに有り難うございました。

ロータリーの水準と理想を高く掲げ続けることの重要性は、いくら強調しても強調しすぎることはありません。ロータリーの倫理の大空に希望の星が高らかに輝かなければなりません。希望の星が高すぎるということは、まずあり得ないでしょう。どこからでも目指して努力できるくらいの高さであることを私は願っています。

（ロータリーの創設者 P・ハリス）